

歴史博物館

■ 達成状況

	達成 (目標値 ≥ 100%)	ほぼ達成 (目標値 ≥ 80%)	未達 (目標値 < 80%)
全館共通項目	8	2	2

■ 取組の概要及び成果等

分類	項目	取組の概要 及び 成果等
利用状況	利用者満足度	<p>【取組の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ エントランスロビーに来館者の声を聞くアンケートを常時設置し、満足度等を調査 ・ 無料観覧日や8月以降に実施した12の講座・講演会・体験教室等において、満足度等を調査するアンケートを実施 <p>【成果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アンケート調査の結果では、「満足」「どちらかといえば満足」「どちらともいえない」「どちらかといえば不満」「不満」の5段階評価のうち、回答者の95%が「満足」「どちらかといえば満足」と回答し、目標を達成することができた。 ・ アンケートの自由記載で、円覚寺舍利殿実物大模型の入り口の梁で頭を打ったという声が寄せられ、速やかに「頭上注意」を掲示し対応した。
	入館者	<p>【取組の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 入館者増と認知度向上にかかる新たな取組み <ul style="list-style-type: none"> ・ 東京を中心とする92の美術館・博物館等の入場券・割引券が1冊にまとまった「東京・ミュージアムぐるっとパス」((公財)東京都歴史文化財団)への新たな参加のほか、タイムズ駐車場会員向け割引施設への登録、近隣宿泊施設利用者向け割引の導入など ・ 第12回西区ハマのウォーキングフェスティバル「川面をたどり、いざ文明開化！」(12月2日開催)への協賛と協力 ○ 特別展・特別陳列等の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別展「神奈川県博開館51周年記念 つなぐ、神奈川県博 —Collection to Connection—」 ・ 特別展「明治150年記念 新明解・明治美術／増殖する新(ニュー)メディア—神奈川県立博物館50年の精華—」 ・ 特別展「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼」 ・ 特別陳列「屏風をひらけば—神奈川県立歴史博物館所蔵の屏風絵—」 ・ 平成30年度かながわの遺跡展「潮風と砂の考古学」(県埋蔵文化財センターとの共催) ○ 各種講座等の開催 <ul style="list-style-type: none"> ・ 上記特別展等の関連行事のほか、講演会、体験教室、現地見学会及び社会教育施設公開講座を開催(「教育・普及事業への参加者」欄を参照) ○ 無料観覧の実施 <ul style="list-style-type: none"> ・ 空調設備更新のための休館を終え再開館した4月28日から30日までの3日間実施 ・ 例年どおり、11月3日(文化の日)と3月21日(春分の日/開館記念日)に無料観覧実施(通常非公開の屋上ドームも公開) ・ 特別展「新明解・明治美術」会期中の9月17日(敬老の日)、天皇陛下御在位30年記念の2月24日にも無料観覧を実施

【成果等】

- 入館者増と認知度向上にかかる新たな取り組み
 - ・ 「東京・ミュージアムぐるっとパス」の利用実績は、常設展（入場券）2,182件、特別展（割引券）381件、合計2,563件であった。対入館者（121,415人）比で約2.1%を占め、新たな入館者の獲得に寄与した。
 - ・ 1,000人程度が参加するウォーキングイベントへの協賛（常設展・特別展招待券各20組40名分の提供）と、当日参加者へのトイレの貸し出しにより、来館者数の増加と当館の認知度向上を図る機会とした。
- 特別展・特別陳列等の開催
 - ・ 「つなぐ、神奈川県博」展は、若手学芸員5人による共同企画で、当館のこれまでの歴史を振り返るとともに未来へつながる当館の役割を提示し、館蔵品を新たな切り口で紹介することができた。
 - ・ 「新明解・明治美術」展では、210件という充実した出品作品で当館近代美術コレクション50年の歩み、さらには近代日本美術の研究の蓄積の半世紀を振り返り、外部からも高い評価を得た。
 - ・ 「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼」展では、信仰と儀礼にかかわる多様な資料から継承と変容を経て、地域に根差した信仰の姿を紹介することができた。なお、本展は名古屋大学人類文化遺産テキスト学研究センターを中心に行われた「宗教テキスト遺産の探査と総合的研究—人文学アーカイヴス・ネットワークの構築—」（JSPS 科研費 26220401）の研究成果を反映し、「列島の祈り」という共通テーマのもと、国文学研究資料館、國學院大學博物館、神奈川県立金沢文庫との連携展として開催した。
 - ・ 「屏風をひらけば」展では、当館が所蔵する15件の屏風絵を一堂に展示し、冒頭には鑑賞の要点を示すパネルを設置し、出品目録に「鑑賞の手引き」を記載したほか、各展示作品のキャプションも専門用語を用いず大きめのフォントでわかりやすい解説に努め、来館者からも好意的な反応を得ることができた。
- 無料観覧の実施
 - ・ 無料観覧日の入館者数は、計7日間で27,261人となった。（3,894人/日）

◇ 入館者数

	H30実績	H25実績	H26実績	H27実績
入館者数（人）	121,415	127,895	142,193	178,873
開館日数（日）	275	309	308	310
1日平均（人）	442	414	462	577

※ H28.6.1～H30.4.27休館、H30.4.28再開館

◇ 特別展等の入館者数（上記入館者数の内数）

< >内は会期

	つなぐ、神奈川県博 <4/28～7/1>	新明解・明治美術 <8/4～9/30>	鎌倉ゆかりの芸能と儀礼 <10/27～12/9>	屏風を開けば <3/2～3/31>	潮風と砂の考古学 <1/19～2/17>
入館者数（人）	15,824	10,648	9,790	6,701	5,651
開催日数（日）	57	52	38	25	25
1日平均（人）	278	205	258	268	226
備考	無料観覧3日含む	無料観覧1日含む	無料観覧1日含む	無料観覧1日含む	

者 教 育 ・ 普 及 事 業 へ の 参 加

【取組の概要】

- 特別展等関連行事の実施
 - ・ 「つなぐ、神奈川県博」展
 - 展示解説（14回）、記念鼎談、連続講座（全3回）、建物見学会（親子向け・一般向け各1回）、体験教室4件（子ども向け/一般向け）を実施。また、横浜本町郵便局と連携して「風景印・小型印押印イベント」（当館オリジナル小型印を作成）を開催
 - ・ 「新明解・明治美術」展
 - 展示解説（13回）、入門講座、社会教育施設公開講座（全4回）、特別演舞、東海大学

		<p>と連携した子ども向け行事(4日間)、シンポジウム、夜の鑑賞会(6回)を開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼」展 学芸員解説(6回)、連続講座(全5回)、記念講演会(2回)、現地見学会、子ども向け体験教室を開催 ・「屏風をひらけば」展 学芸員解説(4回)、講座(2回)を開催 <p>○ 上記以外の講座等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新しい試みとして、学芸員が毎月交代で常設展示から一つの資料を取り上げ詳しく解説する、ミュージアムトーク「今月の逸品」(月1回)を開始 ・ 子ども向け体験教室、古文書解読講座、一般向け体験教室(2回)、建物見学会、当館+横浜3塔をめぐる見学会、当館+港湾遺構をめぐる見学会、社会教育施設公開講座(全4回)、博物館入門講座、教員のための博物館講座を開催 ・ ミュージアムコンサート(3回)や、夏休み期間中の子ども向けイベントとして、近隣の博物館等と連携して博物館めぐりをする「ミュージアムミッション」を開催 ・ 博物館学芸員資格取得のための博物館実習、高校生のインターンシップ、中学生の職場体験、教員の社会体験の受入れ ・ 休館中(H28)の事業としてスタートした学芸員が学校に出向く「出張講座」の継続実施 ・ 展示解説や行事補助の新人ボランティアを対象とする全7日間の「専門研修」を実施 <p>【成果等】</p> <p>○ 特別展等関連行事の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「つなぐ、神奈川県博」展 記念鼎談では、当館館長、県立生命の星・地球博物館館長に神奈川新聞社文化部記者を加えての鼎談を行い、当館の歴史を振り返りこれからの方向性を考えた。また、絵本作家のいしかわこうじ氏を講師に迎え、子ども向け体験教室を実施し、展示資料のスケッチを通して博物館を楽しんでもらった。 ・ 「新明解・明治美術」展 東海大学課程資格教育センター・教養学部芸術学科美術課程と連携して開催した子ども向けワークショップ「明治タイムトラベル!」は、学生が作成したワークシートをもとに、難しい展示に楽しく親しんでもらおうと企画したもので、4日間で子ども70名の参加があった。また、「夜の鑑賞会」は、参加者限定で閉館後の特別展を担当学芸員の解説つきでじっくり鑑賞できる特別企画(3日間計6回)で、展示室に椅子を用意するなど運営に工夫をこらした。 ・ 「鎌倉ゆかりの芸能と儀礼」展 現地見学会では、展覧会で紹介した北鎌倉山ノ内の八雲神社例大祭でお神輿がめぐる道を実際に歩き、土地に伝わる信仰について理解を深めることができた。展示されている面掛行列等の面を観察し、オリジナルの面を手作りする体験教室を実施し、難解な展示を子どもにも楽しんでもらう機会を提供した。 <p>○ 上記以外の講座等の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新企画のミュージアムトーク「今月の逸品」(毎月第2水曜日開催)では、ホームページへの記事掲載とも連動し、常設展示の魅力をアピールした。 ・ 子ども向け体験教室「張り子のだるまを作ろう」では、だるまの由来や種類を学芸員が解説するほか、子ども自らが小型のだるま製作を体験し、だるまの魅力を伝えることができた。 ・ 「ミュージアムミッション」では、多数の館を回った参加者にはグッズや野毛山動物園バックヤードツアーを特典として提供し、子どもが博物館に親しむきっかけづくりになった。 ・ 博物館実習では、選考を経て受け入れた学生13名に対し、7日間にわたる実習プログラムを提供できた。 ・ 当館学芸員が学校に出向いて講義(授業)を行う出張講座は、前年度に引き続き多くの申し込みがあり、小・中・高等学校・養護学校計 延べ35校、2,682人の児童生徒に対して実施できた。
--	--	---

インターネットアクセス	<p>【取組の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 再開館にあわせ、ホームページの全面リニューアルを実施 HPへ特別展、特別陳列や催し物等の情報を掲載 ツイッターによる当館および関連情報を発信 <p>【成果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ホームページ作成に当たり、CMS（コンテンツ・マネジメント・システム）を導入したことで、職員が容易に更新を行うことができる環境が整い、タイムリーな更新を行うことができた。 特別展や行事、新着情報などをHPへきめ細やかにアップし、閲覧者に新規情報を提供することを心掛けたため、HPアクセス件数が1,090,768件となり、H25～27年平均を約30万件上回ることができた。 休館日を除き、ほぼ毎日ツイートし、当館の周知に役立った。また、ツイッターから当館HPにアクセスした数も相当数あると思われ、HPアクセス件数の増加に寄与した。
活用（特別利用）	<p>【取組の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 写真資料の特別利用の申請者に対し、利用者のニーズに応じた説明と適切な事務手続きを遂行。 <p>【成果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 申請者のニーズを把握して最適な利用方法をアドバイスするとともに、利用条件や申請書類の書き方などの説明と適切な事務処理に努め、210件、759点の特別利用について承認した。
活用（常設展示）	<p>【取組の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 実物資料は展示期間に制限があり展示替えが必要であることから、年6日設けた資料整理休館日を中心に延べ560点を入れ替えるとともに、常設展示に繰り返し足を運んでもらえるよう、その情報をHP上で広報。 <p>【成果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 積極的な展示替えの実施とその情報発信は、常設展示室の小特集的な展示であるトピック展示目当ての来館につながるなど、常設展示の活性化に効果があった。 27年度（近年、最多の入館者数）との比較では、入館者数は約32%減（<H27>178,873人 → <H30>121,415人）であったが、1日あたり常設展有料観覧者数で見ると約2%増加（<H27>95.8人 → <H30>97.8人）しており、これらの取組は常設展有料観覧者数の維持に貢献した。
維持管理	<p>【取組の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然的要因を除く毀損（汚破損）の防止 展示室内の環境を改善、整備 計画的な資料修繕 <p>【成果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 空調機器の改修をうけ、安定的な運用ができた。 東京文化財研究所から保存環境にかかる意見書を得るため、展示環境を整備し、各種データを取りまとめた。 指定文化財の公開にあたり、文化庁との綿密な連絡体制のもとで定期的な展示環境のチェックを実施した。
開 研究成果の公	<p>【取組の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究論文の発表のみでなく、展示、講座、広報誌等といった各種媒体で発信し、幅広い方面へ研究事業の成果を公開 年1回発行している当館の研究紀要『神奈川県立博物館研究報告—人文科学—』のインターネット公開を新たに開始

		<p>【成果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 積極的に成果の公開に取り組んだことで、目標値の2倍を超える件数の成果公開機会を作出できた。 「研究報告」のインターネット公開により、さらに広い成果の発信ができた。 																																																						
事業情報の発信	<p>【取組の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別展、特別陳列及び関連行事に係るHP及びチラシ、ポスターや新聞広告による広報 ツイッターによる広報 新聞社等マスコミへの広報 新聞社の協力による特別展に係る記事連載 その他外部広報媒体による広報 	<p>【成果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別展等及び催し物の開催日の約2カ月前にはHPにアップすることで十分な広報期間を確保した。また、予算により作成部数が限られるため、特別展等チラシ・ポスターの配布先への部数を見直し、広報効果を見込める配布箇所を中心に重点的に配布することができた。 休館日を除き、ほぼ毎日ツイートしたため、フォロワー数を年度当初の8,678人から8,852人へと増加させることができた。また、ツイートによる広報効果が実感できた事例として、急遽開催することになった展示解説で、ツイートを見て来た参加者が一定数いたことなどがあげられる。 特別展等ごとに掲載する「1枚で2人までの団体料金適用割引」を表記した新聞広告に、特別展「新明解・明治美術」では161枚の使用があり、新聞広告の効果を実感できた。 毎日新聞社横浜支局の協力で、同紙神奈川版に特別展3回と「かながわの遺跡展」の展示内容を紹介する各4回程度の連載記事を掲載することができた。新聞連載は、展示への関心を喚起し、来館の誘引ともなる有益な広報手段であった。 新聞社等にはプレスリリースを渡すだけでなく、電話やメールによるリマインド及び再度の情報提供をしたことで、取材及び記事掲載までつながった事例があった。 来館者アンケートから、無料で情報を掲載できるweb媒体（マガルドットネット、インターネットミュージアム、横浜観光情報サイト等）の活用が来館者の誘引に寄与していることが分かり、こうした媒体への広報を強化した。 																																																						
	<p>【取組の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別展の開催及び常設展の開催 図録の販売 	<p>【成果等】</p> <p>・観覧料収入</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">特別展</th> <th rowspan="2">計</th> <th rowspan="2">常設展 計</th> <th rowspan="2">合 計</th> </tr> <tr> <th>つなぐ、神奈川県博 <4/28~7/1></th> <th>新明解・明治美術 <8/4~9/30></th> <th>鎌倉ゆかりの芸能と儀礼 <10/27~12/9></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>有料入館者数(人)</td> <td>4,782</td> <td>5,597</td> <td>2,548</td> <td>12,927</td> <td>26,021</td> <td>38,948</td> </tr> <tr> <td>観覧料収入(円)</td> <td>1,749,950</td> <td>2,708,950</td> <td>1,089,450</td> <td>5,548,350</td> <td>5,440,300</td> <td>10,988,650</td> </tr> </tbody> </table> <p>・図録収入</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="3">特別展図録</th> <th rowspan="2">計</th> <th rowspan="2">過去図録 計</th> <th rowspan="2">合 計</th> </tr> <tr> <th>つなぐ、神奈川県博 <4/28~7/1></th> <th>新明解・明治美術 <8/4~9/30></th> <th>鎌倉ゆかりの芸能と儀礼 <10/27~12/9></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>単価(円)</td> <td>7</td> <td>1,000</td> <td>1,000</td> <td>1,500</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>部数(部)</td> <td>イ</td> <td>362</td> <td>1,053</td> <td>579</td> <td>1,994</td> <td>3,151</td> </tr> <tr> <td>図録収入(円)</td> <td>7×イ</td> <td>362,000</td> <td>1,053,000</td> <td>868,500</td> <td>2,283,500</td> <td>3,458,626</td> </tr> </tbody> </table>		特別展			計	常設展 計	合 計	つなぐ、神奈川県博 <4/28~7/1>	新明解・明治美術 <8/4~9/30>	鎌倉ゆかりの芸能と儀礼 <10/27~12/9>	有料入館者数(人)	4,782	5,597	2,548	12,927	26,021	38,948	観覧料収入(円)	1,749,950	2,708,950	1,089,450	5,548,350	5,440,300	10,988,650		特別展図録			計	過去図録 計	合 計	つなぐ、神奈川県博 <4/28~7/1>	新明解・明治美術 <8/4~9/30>	鎌倉ゆかりの芸能と儀礼 <10/27~12/9>	単価(円)	7	1,000	1,000	1,500			部数(部)	イ	362	1,053	579	1,994	3,151	図録収入(円)	7×イ	362,000	1,053,000	868,500	2,283,500
	特別展			計	常設展 計	合 計																																																		
	つなぐ、神奈川県博 <4/28~7/1>	新明解・明治美術 <8/4~9/30>	鎌倉ゆかりの芸能と儀礼 <10/27~12/9>																																																					
有料入館者数(人)	4,782	5,597	2,548	12,927	26,021	38,948																																																		
観覧料収入(円)	1,749,950	2,708,950	1,089,450	5,548,350	5,440,300	10,988,650																																																		
	特別展図録			計	過去図録 計	合 計																																																		
	つなぐ、神奈川県博 <4/28~7/1>	新明解・明治美術 <8/4~9/30>	鎌倉ゆかりの芸能と儀礼 <10/27~12/9>																																																					
単価(円)	7	1,000	1,000	1,500																																																				
部数(部)	イ	362	1,053	579	1,994	3,151																																																		
図録収入(円)	7×イ	362,000	1,053,000	868,500	2,283,500	3,458,626																																																		
施設点検	<p>【取組の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> 常設展示グラフィックパネル9点の更新と常設展示室内でのカラーゾーニングを実施 展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」を導入 オストメイト対応の「福祉便座」2基を整備(1階男女トイレ 各1基) 																																																							

	<p>【成果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 更新した「中世びとのくらし」『鎖国』下の交流等のグラフィックパネルは、文字が小さくて読めないとの休館前からの高齢来館者からの意見を考慮し、説明文の文字を大きくするなどの改善を行った。 ・ 常設展示で新たに実施したカラーゾーニングでは、5つテーマごとにテーマカラーを設定し、展示資料キャプションおよび各展示室のフロアマットにテーマカラーを使用することで、休館前からあった導線がわかりにくいとの来館者の声にも一部対応することができた。 ・ 「ポケット学芸員」は、来館者への展示解説サービスの充実を主たる目的として導入したが、来館者が自身のスマートフォンで展示の解説文を読むことができることから、展示ケース内の解説文等が小さくて読めないとの意見への対応としても一定の効果があった。
自己研鑽及び他館の研究	<p>【取組の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文化庁主催「指定文化財（美術工芸品）企画・展示セミナー」（6/25～29、9/10～14、平成30年度・令和元年度を通じて実施） 受講1人 ・ 文化庁主催「ミュージアム・エデュケーター研修」（9/19～21、2/7～8） 受講1人 ・ 奈良文化財研究所主催「近現代建築保存活用課程」（7/9～13） 受講1人 ・ 神奈川県博物館協会（県博協）人文科学部会幹事及び防災担当幹事を担当 ・ 他館の展示会の観覧や県博協主催研修会への参加等 <p>【成果等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国等主催の研修では、受講者が当該分野における最新の知見を学び、業務にフィードバックするとともに、研修に参加した他館の学芸員等との交流を深めることができた。 ・ 県博協幹事は、他館の幹事と協力して年6回の研修会と防災訓練を計画・実施し、県内の博物館園との連携強化に貢献した。 ・ 学芸員・事務職員とも他館の展示会に積極的に足を運び、最新の展示手法や施設運営に関する知見を得ることができた。

<p>総括</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空調設備等改修工事による約2年間の休館が明けて、4月28日より再開館した。常設展示で9点のグラフィックパネルを更新し、テーマ3（近世）とテーマ5（現代）で大型資料を展示可能なケースを整備するなど一部の展示更新を行ったが、入館者数は休館前の3か年平均を下回る結果となった。 ・ しかしながら、常設展示では各テーマとも積極的な展示替えに取り組み、「初代歌川広重『富士三十六景』」「狭山北条氏」など、特定の小テーマによる「トピック展示」を随時開催し、常設展示の活性化と所蔵資料の活用に努めたこともあり、常設展の1日あたり有料観覧者数の維持に貢献した。 ・ また、スマートフォンを使用した、音声ガイドにも対応可能な展示ガイドアプリ「ポケット学芸員」を導入し、常設展示および特別展で活用した。「ポケット学芸員」には、英語・中国語（繁体字・簡体字）・韓国語の文字解説および英語の音声解説も収録したため、近年増加している外国人来館者への対応の一助ともなった。 ・ 特別展（3本）と特別陳列（1本）は、いずれも当館学芸員の調査研究の成果にもとづく独自企画で、当館の資料や研究の蓄積を提示するテーマ設定の展示が並び、新たな博物館活動をスタートさせる年にふさわしい、当館が開催する意義の大きい展示であった。 ・ 調査研究活動では、外部研究資金による活発な研究が行われたことが特筆される。科学研究費助成事業の採択件数は研究代表者7件（うち新規採択5件）、研究分担者1件で、平成7年の当館リニューアル後最多となり、科研費以外の外部研究資金による研究も研究代表者4件、研究分担者1件が実施された。 ・ 教育普及事業では、休館中に開始した学校への出張講座を継続することとし、館で実施した各種講座も含めて、休館前よりも多くの事業を積極的に展開した。なかでも、今年度はホームページへの記事掲載とも連動した平日開催の常設展示ギャラリートーク「今月の逸品」を新たに立ち上げた。毎月1回開催した講座の総参加者数は232名（1回平均19名）となり、新たな取り組みとして一定の成果を収めることができた。 ・ 博物館活動の基盤をなす資料の保存環境については、空調設備等改修工事により安定した収蔵環境が実現し、収蔵庫の再配置とその円滑な運用を図るなど、長年の懸案の解消に努めた。
-----------	--